

新除草・調節剤

ブタクロール除草剤

(CP-53619)

(取扱メーカー) 三菱モンサント化成株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は α -クロルアセトアニリド系除草剤の一種で、主成分として2-クロル-2'-6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル)アセトアニリドを5%含む粒剤である。

本剤は一年生イネ科雑草であるノビエやカヤツリグサ科のタマガヤツリなどに対して卓効を示し、成育初期または中期のマツバイに対して

もすぐれた効果を示す茎葉兼土壌処理剤である。

Pre-emergence 型除草剤であるが、ノビエ

1.5葉期まで作用し、成育停止ののち葉色が濃緑化して、矮化枯死させる。水に対する溶解性は小さく、土壌移行性も少ない。しかも残効性が比較的長いので、田植後4～8日に使用した際に雑草の既発生が認められない場合には、長期間雑草の発生を抑えるのでジフェニルエーテル系の除草剤よりも有効な長所を有している。

毒性：人畜毒性は急性経口毒性LD₅₀=1740 mg/Kg(ラット)で極めて低く、魚毒性はB類

農林統計編(昭和45年12月15日農林省統計調査部公表)

昭和45年産農作物の総作付面積および耕地利用状況

(全国)

	作付(栽培)面積			耕地利用率			
	計	前年との比較		計		田	畑
		差	比率	利用率	前年との差		
	ha	ha	%	%	%	%	%
作付(栽培)合計	6,310,000	△499,000	92.7	108.9	△7.5	98.5	123.8
水 稻	2,836,000	△337,000	89.4	48.9	△5.3	83.0	0.0
陸 稻	87,400	△13,900	83.6	1.5	△0.2	—	3.7
麦 類	482,800	△120,700	80.0	8.3	△2.0	5.8	11.9
か ん し ょ	128,700	△24,900	83.8	2.2	△0.4	0.0	5.4
春植えばれいしよ	150,600	△18,500	89.1	2.6	△0.3	0.3	5.9
雑 穀	35,600	△7,800	82.0	0.6	△0.1	0.0	1.5
豆 類	337,300	△1,700	99.5	5.8	0.0	0.8	13.0
果 樹	416,200	3,400	100.8	7.2	0.1	—	17.5
野 菜	687,500	6,000	100.9	11.9	0.3	3.3	24.2
工 芸 作 物	256,500	△23,000	91.8	4.4	△0.4	0.9	9.4
桑	163,100	300	100.2	2.8	0.0	—	6.9
飼 肥 料 作 物	735,600	37,400	105.4	12.7	0.8	4.4	24.6

注) ① 採種圃、苗圃、花き等は計上していない。

② 耕地利用率は、耕地面積(畦畔を含む)に対する作付(栽培)面積の割合である。

③ 麦類の子実・青刈兼用面積は麦類と飼肥料作物に、豆類の乾燥子実・未成熟兼用面積は豆類と野菜にそれぞれ重複計上してあるので、作付(栽培)合計と作物別合計とは一致しない。

④ △印は、減を示す。

新除草・調節剤

である。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から8日の間に10アール当たり3kgを湛水のまゝ、水面に均一に散粒する。適用地域は、普通期全域の壤土から埴土で、縦浸透1日2cm以下の水田に適用される。

使用上の注意：早期移植水稻および稚苗を移植した水稻に対する試験例が少ないため、今までのところこの場合の使用はさける。また、広葉雑草が優先する地帯では早めに処理し、散布の際はまきむらを生じないように均一に散布する。

シメトリン・ブタフロール除草剤

(ブタクロールS)

(取扱メーカー) 三菱モンサント化成株式会社

日本農薬株式会社
三 共 株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は α -クロルアセトアミド系除草剤のブタクロール4%にトリアジン系のシメトリンを1.3%加えた混合粒剤である。

ブタクロールにシメトリンを混入することにより処理適期幅および殺草スペクトラムの拡大をはかったもので、ノビエ2葉期までの土壤兼茎葉処理剤である。殺草力についてもブタクロール単剤が、既に発生しているコナギ、ミゾハコベ、キサシグサに対してやゝ効力が劣るのに対し、シメトリン・ブタクロールの混合剤はこれらに対してもすぐれた殺草効果を示している。

毒性：人畜毒性はブタクロールが $LD_{50} = 1740 mg/kg$ (ラット) でシメトリンが $LD_{50} = 535 mg/kg$ (マウス) である。魚毒性はBランクで通常の使用法では影響は少ない。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から12日の間に10アール当たり3~4kgを湛水のまゝ、水面に均一に散粒する。適用地域は普通期全域の壤土から埴土で縦浸透1日2cm以下の水田に適用される。

使用上の注意：早期移植水稻および稚苗を移植した水田に対しては試験例が少ないため、使用はさける。また高温時の使用をさけ、なるべく健苗を使った水田に散布する。

フェノチオール・ブタクロール除草剤

(CP-19H)

(取扱メーカー) 三菱モンサント化成株式会社

北興化学工業株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は α -クロルアセトアミド系除草剤のブタクロール4%にホルモン型のフェノチオールを0.6%加えた混合粒剤である。

この混合剤の特色は一年生水田雑草に対して極めて強力な殺草性を示し、特にマツバイに対しては効果が高いことである。処理時期もブタクロール単剤よりは幅が広く、ノビエの2葉期まで有効な土壤兼茎葉処理剤である。毒性は通常の使用法では問題がなく、魚毒性に関しても通常の使用法では影響が少ない。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から12日の間に10アール当たり3kgを湛水のまゝ水面に均一に散布する。適用地域は北海道、九州を除く、普通期地帯の壤土から埴土に対し適用される。漏水は1日2cm以下の範囲内が好ましい。

使用上の注意：砂質土および漏水の大きい水田では使用をさけ、早期移植水稻および稚苗移